

令和7年度 第1回新潟市歴史博物館運営協議会

日時：令和7年8月1日（金）午後2時00分～

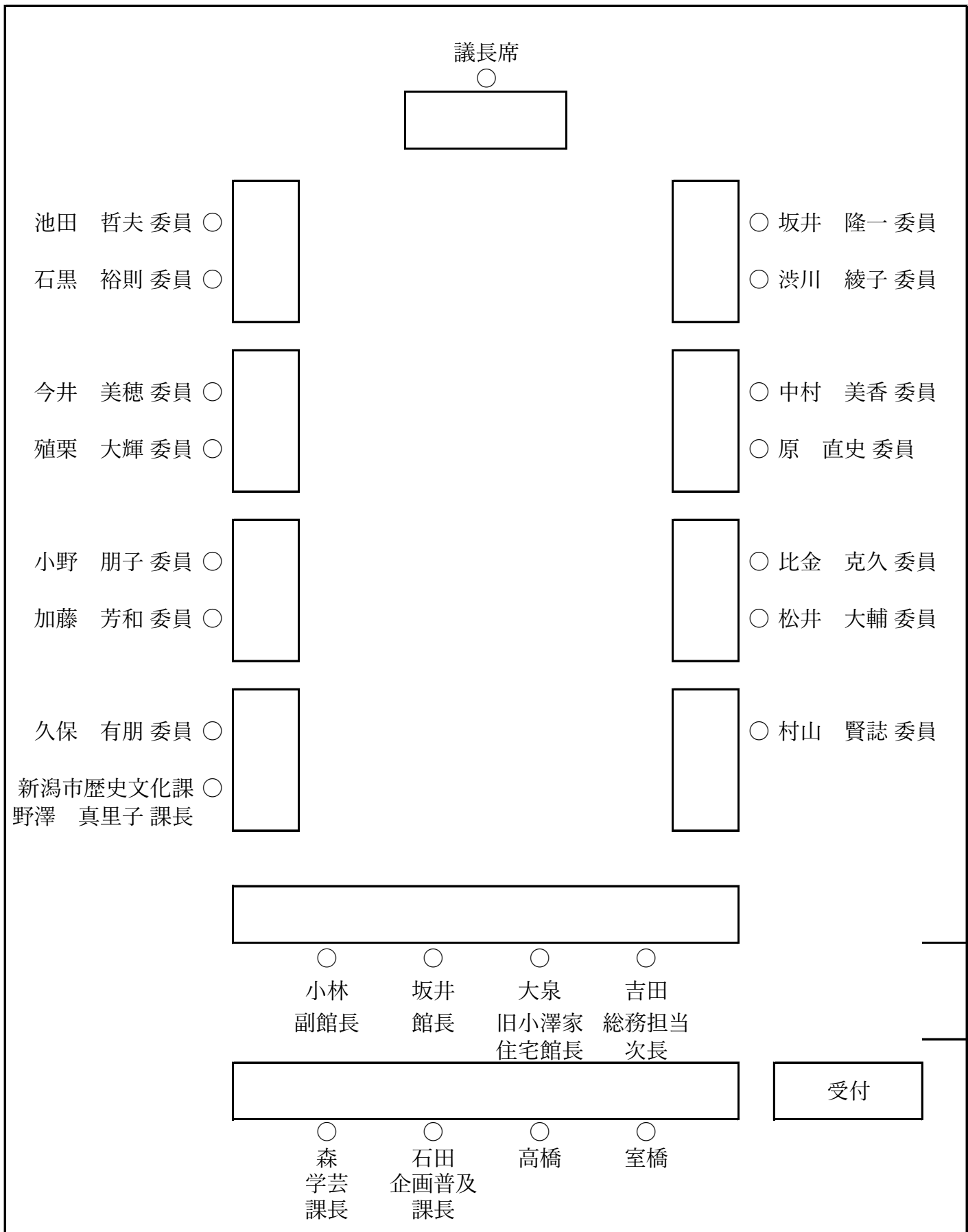
会場：新潟市歴史博物館 本館2階セミナー室

次 第

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 令和7年度事業計画及び事業実施状況
 - ① 歴史博物館
 - ② 旧小澤家住宅
 - (2) 歴史博物館・旧小澤家住宅の運営方針
 - (3) 博物館評価
- 4 事務局からの報告
- 5 閉会

令和7年度第1回 新潟市歴史博物館運営協議会 席 次

日時： 令和7年8月1日（金）午後2時～
会場： 新潟市歴史博物館 本館2階セミナー室



新潟市歴史博物館運営協議会
 (R7～R8年度) 委員名簿

(令和7年8月1日現在)

	氏名	所属・推薦団体等
1	池田 哲夫	新潟大学人文学部名誉教授 (民俗)
2	石黒 裕則	新潟市立木崎中学校長
3	今井 美穂	新潟日報社 読者局 ふれあい事業部 事業担当部長
4	殖栗 大輝	公募委員
5	小野 朋子	B S N新潟放送 ビジネスプロデュース局 エリアプロデュース部担当部長代理
6	加藤 芳和	日本旅行業協会 関東支部 新潟県支部 株式会社メディアシップ・ブランド 旅行センター部長
7	久保 有朋	古町花街の会
8	坂井 隆一	新潟市立牡丹山小学校長
9	渋川 綾子	にいがた湊あねさま倶楽部
10	中村 美香	(有)ミカユニバーサルデザインオフィス
11	原 直史	新潟大学人文学部教授 (日本史)
12	比金 克久	新潟市小中学校 P T A 連合会副会長
13	松井 大輔	新潟大学工学部准教授 (都市計画)
14	村山 賢誌	公募委員

(50音順)

オブザーバー	野澤 真里子	新潟市歴史文化課 課長
--------	--------	-------------

新潟市歴史博物館運営協議会
事務局 名簿

(令和7年8月1日現在)

役職		氏名
新潟市歴史博物館		
	館長	坂井 秀弥
	副館長	小林 隆幸
	総務担当次長	吉田 英津子
	企画普及課長	石田 孝子
	学芸課長	森 行人
	職員	室橋 亜衣
新潟市文化財 旧小澤家住宅		
	館長	大泉 敏一
	職員	高橋 久美

新潟市歴史博物館運営協議会設置要綱

(設置)

第1条 館長は、新潟市歴史博物館（以下「博物館」という。）の運営について意見を聴くため、新潟市歴史博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員)

第2条 協議会の委員は次に挙げるもので構成する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 学識経験者
- (4) 公募により選抜された者
- (5) その他館長が必要と認めた者

(定数)

第3条 定員は15名以内とする。

(任期)

第4条 協議会の委員の任期は2年3か月とし、令和7年4月1日から令和9年6月30日までとする。ただし、任期中に委員が交替する場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。なお、委員を再任する場合は通算の在任は原則6年を超えないものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 会長は会務を総理する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会議)

第6条 協議会の会議は会長が招集し、その議長となる。

- 2 協議会の会議は、定数の半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。
- 4 会長は、必要のあるとき、委員以外のものを会議に参加させることができる。ただし、その者は、採決に参加できない。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、新潟市歴史博物館企画普及課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱で定めるもののほか、会の運営に関して必要な事項は、会長が別に定めるものとする。

附則

この要綱は平成16年1月1日から施行する。

この要綱は平成17年7月27日から施行する。

この要綱は平成18年4月1日から施行する。

この要綱は平成20年4月1日から施行する。

この要綱は平成22年4月1日から施行する。

この要綱は平成23年4月1日から施行する。

この要綱は平成25年4月1日から施行する。

この要綱は平成27年4月1日から施行する。

この要綱は平成29年4月1日から施行する。

この要項は平成31年4月1日から施行する。

この要綱は令和3年4月1日から施行する。

この要綱は令和5年4月1日から施行する。

この要綱は令和7年8月1日から施行する。

令和7年度 新潟市歴史博物館事業計画

◆指定管理事業

公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が指定管理者として、下記事業を実施する。

1 展示運営更新事業

事業名	事業概要
展示運営更新	「郷土の水と人々の暮らし」をテーマに新潟市の歴史を紹介する常設展示では、日々の設備点検保守と見学への対応を行う。また、一部展示替え可能なケースを用いて企画展やその折々テーマを設定した展示替えを実施する。また、シアターでは3本の映像ソフトを時間に応じて上映。当年度から2か年計画で新規の映像ソフト(川湊や潟の歴史・文化を発信する映像)の制作に入る予定(「水がっなぐ各地域の歴史・文化の魅力発信事業」)。

2 企画展示事業

事業名	開催期間	観覧料	事業概要
①「にいがた てしごと ものづくり展」	4月12日～6月8日	一般 500円 高校生・大学生 300円 小学生・中学生 200円	新潟で紡がれてきた『てしごと』や『ものづくり』と暮らしのかかわりから新潟の魅力を再発見するとともに、それを受け継ぐ人びとを紹介する。
②「戦場の町と村 新潟 市と戊辰戦争」展	7月12日～8月31日	一般 500円 高校生・大学生 300円 小学生・中学生 無料	慶応4(1868)年の北越戊辰戦争では新潟町も戦場となった。本展では現新潟市域の人々と戊辰戦争とのかかわりをひも解く。
③第22回むかしのくらし展	9月13日～11月24日	無料	小学校3年生の社会科「むかしの暮らし」の単元に合わせ、暮らしの移り変わりに関する展示を行う。
④収蔵品展・新収蔵品展	2月14日～3月22日	無料	収蔵品展ではテーマを設けて博物館が所蔵する資料を紹介、新収蔵品展では令和七年度に新たに収集した資料を紹介する。

3 教育普及事業

事業名	実施概要
①体験の広場	体験の広場の施設や資料を活用し、学芸員とボランティアスタッフ・外部協力者により、小学生や家族連れ・大人等を対象に各種の体験プログラムを実施。茶の間の押入スペースを使った展示も実施する予定。
②博・学連携	小学生の見学や中学生の総合学習等に対する館内での対応のほか、ゲストティーチング等、学校へ出向いての授業にも対応。また、新潟大学への寄付講義も例年通り実施の予定。昨年度実施した教師向けの「先生のための『みなとぴあオープンデー』」や、園児向けの「はじめてみなとぴあ」プロジェクトも継続実施している。また、公立中学校の部活動の「地域移行」にも柔軟に対応する。
③博物館実習	新潟大学生を対象とした博物館実習を例年通り実施する。資料の収集・保存や展示公開、体験プログラムの企画、マネジメントなどを講義と実技で学ぶ。実習は、新潟大学生を対象とした4月から11月までの毎月2日間実施する通年編と、夏休み期間を利用し、他の大学生を対象とする集中編に分けて実施する。
④講座	調査研究事業の成果を公開し、新潟の歴史や文化に関する「学び」や「楽しみ」を提案することを目的に、各学芸員が講師をつとめる博物館講座(全10回)、館長がプロデュースする館長講座(全4回)、新潟の歴史の特性を座学と現地から学ぶ歴史講座「浜・潟・山の歴史とくらし」(全3回) を実施予定。
⑤ボランティア	当館の活動に理解や関心を持ち、自己実現と社会貢献をめざして館の活動に参加するスタッフで、敷地ガイド・常設展ガイド、体験の広場のプログラムの実施などに従事。当年度も新規に募集し、市民の活動の機会を増やす。近年、高校生ボランティア登録者も増え、それに応じたイベント等も計画・実施する。
⑥その他	「水がつなぐ各地域の歴史・文化の魅力発信事業(広域合併20周年企画)」として上記の映像制作のほか、新潟市の合併市町村に共通する歴史・文化として舟運や潟をテーマとしたまちあるき等を実施する。

4 施設普及事業

事業名	実施概要
①広報	「新潟市と戊辰戦争」展などで地元マスコミと共催した広報を実施する。また、県外地方紙へ観光客誘発のための有料広告を掲載予定。その他、企画展やイベントに応じてチラシやポスターを製作し、関係機関・個人・団体に配布する。また、ホームページやSNSを活用した情報発信にも努める。
②地域連携	地元市民団体と共催し、春の「堀と桜のコンサート」、夏の「みなと・しもまち・川まつり」・「夕涼みコンサート」などを開催予定。そのほか、関連団体や学校などと連携し、館内のエントランスなどを会場にしたパネル展なども随時行う予定。

③みなとびあファンクラブ	当年度も会員を募集し、特典イベントを実施する。年間クラブ費は600円(10月1日～翌年9月30日)、常設展及び企画展の観覧料が団体料金(2割引)となる。そのほか会員特典として博物館の情報を定期的に提供するほか、館長バスツアーや館長講演会、学芸員が講師をつとめる講座やまちあるき、各企画展の解説会などを実施する。
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 調査研究事業

事業名	実施概要
調査・研究	新潟市の歴史を明らかにし、将来にわたって市民の知的財産になるための調査研究を実施。今年度はその成果の一部を研究紀要第22号にまとめるほか、各企画展および各学芸員の講座等で発表する。

6 資料収集・整理・保存・活用

事業名	実施概要
資料収集・整理・保存	市の歴史に関する資料を収集し、市民共有の財産として整理・保存・活用する事業を実施する。資料の寄贈受入れについては寄贈者との信頼・協力関係を保ちながら行うことに留意する。また、新規受け入れ資料を中心に防虫対策のためのくん蒸なども実施する。資料保存に関しては、展示室やケースなどの展示設備をはじめ、展示具を収める展示準備室、収蔵施設である本館収蔵庫・旧木場小学校において、IPM(総合的有害生物管理。環境に配慮し、必要以上に薬剤を使用せず、こまめな清掃や有害生物が館内に入りにくいような物理的環境を整える管理手法のこと。)に則った保存環境管理を行う。

7 管理運営

事業名	実施概要
管理運営	利用者へのサービスに努め、市民に親しまれ、安心して活用できる博物館を目指し、歴史博物館・旧新潟税関庁舎等の管理運営を行う。

◆付帯事業

事業名	実施概要
物販	図録や歴史関連の書籍・グッズなどを販売。
自動販売機の設置	

◆歴史発見プロジェクト（自主事業）

指定管理事業の補完的役割を果たす自主事業。特定費用準備資金制度にもとづいて実施。財源は団体・個人からの協賛金をはじめ、本事業の収益金および学芸員が外部講師等をつとめた際の謝金など。

1 企画展示事業

事業名	開催期間	観覧料	事業概要
①「にいがた映画展」展	12月6日～1月25日	常設展観覧券の購入で観覧可	新潟における映画の歴史をひも解き、映画ポスターや映写機等を展示し、映画館の変遷や新潟がロケ地となった映画、新潟ゆかりの映画人を紹介する。

2 教育普及事業

事業名	実施概要
①古文書上達講座	古文書学習の経験者を対象にした古文書の上達講座。毎月第4水曜日に実施、全10回。受講料5,000円。
②みなとぴあこども歴史クラブ	小学生を対象に、古代から現代にいたる人々の暮らしの一端を体験用にプログラム化し、体験を通じて歴史を身近に感じ、かつての暮らしの知恵や文化財保護を考えるきっかけとする。毎月第3日曜日に実施、全11回。
③大人の体験プログラム	大人が楽しめる歴史・文化にかかわる体験イベント実施予定。
④特別講演会	地域の歴史にとらわれず、幅広い歴史の中からテーマを選ぶ歴史講演会を実施予定。
⑤古町学	旧新潟町エリアを学びの場とし、市民参加によって歴史・文化・魅力を掘り起こす地域学として実施。
⑥外部講師・講座	民間や公民館、その他団体主催の講座・講演会などへ学芸員を講師として派遣する。

I. 博物館による自己点検と評価	
来館者数の目標及び実績	目標 93,000人 実績 20,666人(令和7年6月末時点)
来館者数の満足度	目標 「良い」「とても良い」が70%以上 実績 「良い」「とても良い」が97.9%(令和7年6月末時点、企画展分は除く)
全体の成果	中期計画に関わり、企画展「にいがた てしごと・ものづくり」展の開催を通じて、新潟市域の伝統的な手工業及びそのマーケティング・ブランディング事業者等多様な主体と連携して展示・ワークショップ・物販を行うことができた。ボランティア活動のほか、はじめてみなとぴあや高校生ボランティアも活動の回を重ねており、未就学・青少年層に向けた来館・活動プログラムの定着を通じて、文化資源を介した多様な世代の活動をつなぐハブとしての機能が期待される。SNSは、4月以降1ポスト/1日～数日と高い頻度で発信。発信内容も展示やイベントの告知、資料紹介や展示・敷地内の見どころなど多岐にわたる。中期計画のほか、館内外での講座や体験プログラムの開催も回を重ね、参加者も多く、好評である。
全体の課題	中期計画では、SNS以外のデジタルアーカイブ化の推進に向けた準備が遅れており、誰でも・どこでもアクセス可能な情報発信の体制構築に向けた工夫が課題。また、障がいの有無や言語の差異など属性に関わらず利用できる環境の整備に向けた準備も進めることができず、まずはあるものを活かした工夫から取り組みを始めることが課題。
全体の評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し ※評価は今年度第3回目の運協で実施する※

II. 運営協議会委員による評価・検証	
全体の評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し ※評価は次年度第1回目の運協で実施する※
評価のコメント及び今後の課題や提言	※評価は次年度第1回目の運協で実施する※

令和7年度 新潟市文化財 旧小澤家住宅 事業計画

◆指定管理事業

1 常設展示・企画事業

事業名	開催期間	事業概要
常設展示	通年	みなとまち新潟の歴史や生活文化、また小澤家や旧小澤家住宅について、グラフィックパネルやモニターを使い紹介。
企画事業		新潟町の歴史に関連した企画展や、旧小澤家住宅の風合いに合った企画展等を開催。
①「新潟歴史玉手箱」展	4月12日～5月18日	新潟市内に残る記念碑に焦点を当て、その由来や顕彰の意義を写真パネルで紹介する。
②「筒描」展	5月24日～7月6日	油単(ゆたん)・布団等に使用された筒描(つつがき)を展示し、当時の価値感に基づいたデザインや、職人の手仕事によって生み出された美を紹介する。
③桜井進一氏写真展「昭和の記憶－農村が消えた－」	7月12日～8月31日	昭和30年代以降に桜井氏が撮影した市内農村部の写真を展示し、往時の姿を回顧する。
④「みんなの問題 海のゴミ」展	7月12日～7月27日	一般社団法人JEAN所蔵の海ごみ問題啓発に関する写真パネルを展示する。
⑤新潟郵趣会展「昭和100年－時代と共に生きる切手の世界－」	9月13日～10月5日	明治時代以降の切手、絵葉書等を展示し、郵趣の魅力を紹介する。今年が昭和100年に当たるので、それに因んだものを展示。
⑥「新潟仏壇工芸」展	10月11日～11月3日	新潟市の伝統的工芸品である「新潟仏壇」を展示、紹介する。
⑦「越後の文人 池田孤邨」展	11月15日～12月21日	現在の阿賀野市の生まれで江戸時代後期の琳派の絵師、池田孤邨(こそん)のデジタル複製画「紅葉に流水・山景図屏風」を展示する。アメリカ、スミソニアン国立アジア美術館所蔵の日本画の名品の高精細複製品。
⑧「羽子板」展	令和8年 1月4日～1月18日	贈答品として小澤家に伝わる華やかな羽子板を展示し、贈答文化や正月遊びの羽根つきを紹介する。
⑨「ひな人形」展	令和8年 2月14日～3月22日	桃の節句に合わせ、明治期以降のひな人形や江戸期のからくり人形を展示する。

2 教育普及事業

事業名	実施概要
①体験学習事業	<ul style="list-style-type: none"> ○「仏壇工芸展」制作体験 10～11月 ○「稲穂でつくる正月飾り」講座 11月 ○「クリスマスのリース作り」講座 12月 ○「フラワーアレンジメントワンディレクソン」 2月 ○「稲わらでつくるひな人形」講座 2月
②講座・講習・講演会事業	<ul style="list-style-type: none"> ○企画展関連講演会 「(仮)石造物に見る近世日本海交易」 4月 ○古文書講座 6月、9月 ○庭園講習会 6月、11月
③ボランティアガイド	登録者31名。日頃の館内ガイド活動のほか、全体会、研修会等を実施する。

3 施設普及事業

事業名	実施概要
施設普及事業	旧小澤家住宅の活動を広く市民に知ってもらうため、広報物の作成・配布や、SNSによる情報発信、マスコミを通じたPRを行う。 また季節に合わせて館内の設え(しつらえ)を行うとともに、イベントを開催し、来館の動機付けを行う。
①季節に合わせた設え等	<ul style="list-style-type: none"> ○応接セットの展示 5月頃 ○山野草の展示 5月 ○簀戸(すど)入れ替え 6月1日、10月1日 ○かえるまつり(ミニ展示) 6月 ○きのこまつり(ミニ展示) 10月
②季節に合わせた飲食を伴うイベント	<ul style="list-style-type: none"> ○藤見煎茶会 5月 ○夏至祭 6月15日 ○秋の大文化祭 11月23日 ○年忘れ煎茶会 12月
③企画展等に関連したイベント	<ul style="list-style-type: none"> ○フラワーアレンジメント「花で彩る」 令和8年1月 ○箏と尺八の演奏会 令和8年2月

4 調査研究事業

事業名	実施概要
調査・研究	市民の関心のあるテーマの探求や当館の活動の発展のため、調査研究を行う。 また「旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会」に参加し、協働して活動する。

5 収蔵資料の保存管理事業

事業名	実施概要
資料の収集・整理・保存	小澤家等より寄贈を受けた歴史・民俗・美術・図書等の資料を良好に保存しつつ、展示等に活用する。

6 文化施設管理受託事業

事業名	実施概要
旧小澤家住宅管理事業	文化財としての施設を良好に維持管理するとともに、来館者へのサービスに努める。

◆付帯事業

事業名	実施概要
物販	来館者に対するサービス充実のため、当館オリジナル商品をはじめ、和の文化、みなとまちや歴史に関するグッズや書籍を販売する。

I. 旧小澤家住宅による自己点検と評価	
来館者数の目標及び実績	目標 16,000人 実績 4,205人(令和7年6月末時点)
来館者数の満足度	目標 「大変良い」「まあ良い」が70%以上 実績 「大変良い」「まあ良い」が97%(令和7年6月末時点)
全体の成果(R7年6月まで)	順調に事業を進めることができた。
全体の課題(R7年6月まで)	企画展が新聞に掲載され入館者が増加したことから、今後もマスコミを活用した広報を展開する。
全体の評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し ※評価は今年度第3回目の運協で実施する※

II. 運営協議会委員による評価・検証	
全体の評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し ※評価は次年度第1回目の運協で実施する※
評価のコメント及び今後の課題や提言	※評価は次年度第1回目の運協で実施する※

令和7年3月31日制定

令和7年8月1日改訂

新潟市歴史博物館・旧小澤家住宅の運営方針

<令和7年度～令和11年度>

1. 策定の趣旨

新潟市歴史博物館（以下、「博物館」という）及び旧小澤家住宅（以下、「旧小澤家」という）は新潟市が設置した施設であり、博物館は令和6年で開館20年、旧小澤家は開館13年を迎えた。両施設とも開館時より新潟市が100%出資している公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が指定管理者として運営を担っている。

博物館及び旧小澤家住宅はこれまで種々の成果を上げてきたが、予算の削減が続く中、施設の老朽化、展示内容やそれに関する機器の更新、さらには開館準備室以来の職員の世代交代を迎えるなど、博物館を取り巻く環境も大きく変化し、多くの課題を抱えている。これまで新潟市の歴史・文化財の活用、観光と地域振興等において、博物館が果たしてきた役割の大きさ、重さに加え、博物館法の改正により地域課題に対する取り組みが博物館の新たな役割として求められる中、それらを担ってきた博物館は引き続きこの課題に取り組む責務がある。

これらの課題を解決しつつ、博物館事業の維持向上を図るためには、まずは、博物館の各事業の内容とその成果、課題などについて客観的に把握・分析して「博物館事業の見える化」を図る必要がある。そのうえで、博物館内部においては、職員間で目的・目標を共有し事業の改善に努めるとともに、財政負担を伴う課題については、市当局の理解を得る必要もある。

そのためには各事業の目標の設定と評価が不可欠である。不断に活動の検証と改善を行うことで、市当局に対して事業の成果を明確に示すことができるとともに、広く市民にも提示することで、市民の博物館に対する理解を深め、その協力を得て、よりよい博物館づくりへの出発点とすることができる。

そこで、博物館法の改正に立脚し、今日の新潟市の情勢・施策において市の博物館に求められる役割を、今後5年間（令和7年度～令和11年度）における博物館の新たな「運営方針」として定め、そのなかで評価のあり方についても言及するものとする。

2. 社会情勢の変化

現在博物館及び旧小澤家住宅の取り巻いている社会情勢の変化の主なものとして、①人口減と少子高齢化の進行、②ICTの進化と普及、③持続可能な開発目標（SDGs）の推進、④文化芸術基本法の成立に伴う博物館法の改正、が挙げられる。

（1）人口減と少子高齢化の進行

人口減、少子高齢化の進行に伴い、まちづくりや産業の担い手の減少、税収の減少に伴う財源の縮小、利用者数の減少などが見込まれる。

こうした中、新潟市への人の流れを生み出し、新潟市のくらしの魅力を伝えるために文化資源の活用が期待されている。特に市の将来を担うこどもや若者に対して、新潟市の歴史・文化を知り、市に愛着や誇りを育む取り組みが期待されている。子育て世代に対して、子育て

て環境の文化・教育面での魅力向上に寄与する取り組みが期待されている。

また、幅広い世代が活動できる場の創出が期待されている。

(2) ICTの進化と普及

ICTの進化と普及により、情報伝達手段も既存のマスメディア（TV・ラジオ・出版等）に加え、WEBを介した多様なコミュニケーションが容易になった。それにより文字・音声・写真・動画といった多彩なコンテンツの送受が可能となった。また、小中学校授業ではデジタル化が進行し、WEBを介した端末上での資料の利用も広がっている。

こうしたICTの進化と普及に対応し、博物館事業のDX化を推進し、地域社会での活用を広げるネットワークを介した情報発信は、改正博物館法においても求められている。

(3) 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

省エネや環境に配慮した施設運営、既存の資源を活かした活動の推進や、博物館・旧小澤家住宅を将来の文化資源として継承できるよう防災への備えの強化が求められている。

また、誰ひとりとり残さない社会への実現に向けて、物理的・心理的にも社会的障壁を取り除くような運営が求められている。

(4) 博物館法の改正

令和4（2022）年、博物館法が大幅に改正され、翌年4月1日に施行された。この改正は上記（1）～（3）で述べたような社会の変化に対応するための大きな内容の変更であり、これを踏まえた事業の実施が求められている。

3. 博物館活動の基盤となる法令上の根拠とこれまでの実績

(1) 博物館法の改正

当博物館は博物館法に定める指定施設（旧博物館相当施設）であり、この法令に則り運営している。昨今の社会状況の大きな変化を踏まえ、上位法に旧来の社会教育法のほか、平成29（2017）年に制定された文化芸術基本法が加えられた。博物館運営もこの精神に基づくことが定められた。

「文化芸術基本法」は、文化芸術の施策に関わる基本理念や基本事項、国や地方公共団体等の責務等を定める。文化芸術が人間に多くの恵沢をもたらし、心豊かな社会を形成するものであることから、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を図ること等を基本理念に掲げ、文化財等の保存活用、生活文化や伝統芸能の振興等の施策を定めている。

博物館法の改正はこれを受けて、教育や学術・文化の振興にとどまらず、地域の多様な主体との連携・協力により、教育、学術及び文化の振興はもとより、文化資源を活用して文化に関する理解を深める「文化観光」やその他の活動の推進を図り、それによって地域の活力の向上に寄与するよう努めることを博物館に求めている。

また、今日のICT情報の発展と普及を踏まえ、博物館が持つ資料をデジタル化して保存するデジタルアーカイブの作成と公開を、博物館が行う事業の一つとして新たに明確に位置付

けている。

(2) 当館の上位計画

当館の上位計画である『新潟市総合計画 2030（令和5年3月策定）』では、「活力あふれるまちづくり」、「持続可能なまちづくり」を基本理念とし、「田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」を目指す都市像として掲げ、「文化芸術の発展・継承による心豊かな暮らしの充実」を目指している。

また、『新潟市文化創造都市ビジョン（令和6年3月策定）』では、新潟市総合計画を受けて、基本的なビジョン（展望）として「文化芸術によって育まれた、市民一人ひとりの心の豊かさやいきいきとした暮らしが、将来にわたってまち全体を活性化している」ことを掲げている。

新潟市が掲げる将来像に向け、総合計画上の文化芸術関連施策を推進する上で博物館が重視するのは次の二点である。

第1点は、地域に根差して受け継がれてきた文化財や歴史的建造物、民俗芸能などについて、その本質的価値を明らかにするために多様な主体と連携・協働により調査研究を行い、その価値を市民が認識し、理解を深め、共有することを通して気づきや学びを誘発する機会を創出するとともに、担い手の育成の支援などを通して保存・継承に進めることである。

第2点は、地域の気候・風土が長い時間をかけて育んだ「みなとまち文化」などの文化・歴史的資産や、市民が共感できる地域資源の魅力を発信し、市民が新潟らしさを文化に見つけ、誇りに思うことができるようにすることである。

(3) 新潟市歴史博物館設置条例

当博物館は、平成15（2003）年9月の設置にあたり、設置条例に「市民の社会的活動及び文化的活動に寄与する」ことを目的として掲げた。そのために「新潟市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めるとともに、歴史を媒介とした市民交流を行うこと」とした。主体としての市民像を念頭において、開館当初から活動を積み重ねてきている。

(4) これまでの実績と課題

①活動の実績

博物館の20年間の活動の実績として、新潟市内の歴史的資産を博物館資料として収集・保存し、館の基本テーマである「湊と湊町」と「低湿地の暮らし」を軸に調査研究を進めて、企画展「新潟の舟運」「舟と船大工」「絵図が語るみなと新潟」「大新潟湊展」「蒲原平野の20世紀」「開墾の技術」「潟の暮らし」「北前船と新潟」などの展示事業や「浜潟山」などの講座をはじめ各種の教育普及事業、「図説新潟開港150年史」の執筆等を通じて市の特色ある歴史像の発信を重ねてきた。また、展示事業や教育普及事業において開館当初から市民交流の推進と支援を重視し、特に、ボランティアは館と来館者、及び専門家と市民を媒介し、館の情報発信に欠かせない存在となっている。

また、平成29（2017）年度「墓石に近世新潟町の歴史を探るプロジェクト」や平成30（2019）年度「新潟開港150年 新潟古町の記憶と魅力発信事業」などの市民参加型の調査・研究事業においては、市民交流を通じて調査・研究の成果をあげるとともに、市民自

らが地域の歴史を掘り起こし、過去の人びとの営みを実感するとともに、地域に誇りと愛着を育むことにつなげることができた。

さらに、近年実施してきた未就学のこどもを対象とした新たな活動や学校との連携の拡充は、小さいころから博物館に親しむことを重視し、あらたな若年層の利用拡大につながる取り組みのひとつとなっている。

②今後の課題

「市民の社会的活動及び文化的活動に寄与すること」の実現に向け、館の外へ出た地域づくりに関わることを挙げられる。

歴史資料の情報公開が十分でないことも課題となっている。歴史資料をはじめ文化資源が、市民に広く、十分に活用されるためには、基礎的な所蔵資料の情報公開が不可欠である。

さらに、文化芸術基本法が定める年齢、障害の有無、経済的な状況、居住する地域にかかわらず等しく鑑賞、参加、創造ができる環境の整備、即ちユニバーサル化を進める上で、開館時に用意した音声ガイドの老朽化による故障が多く発生し、外国人や障がい者の利用サービスを低下させていることが課題となっている。

4. 新潟市歴史博物館及び旧小澤家住宅の理念と目指す博物館像

博物館活動の基盤となる法令や上位計画、これまでの実績と課題を踏まえ、当博物館の運営理念を次の通り掲げる。

(1) 博物館の運営理念

海と河川流域を結んだ信濃川河口の立地と歴史がもつ意味をふまえ、重要文化財並びに史跡の旧新潟税関舎の歴史的価値と、昭和46(1971)年以来ここで30年間にわたり運営された旧新潟市郷土資料館の蓄積を継承しつつ、新潟市の歴史の特性を明らかにする。そしてその根拠となる文化財や歴史資源等を後世へ継承する。

博物館の調査研究の成果を市民と共有し、地域に対する誇りと愛着を育むことを促すとともに、その経験や感動を他者と共有し、交流できる機会を提供する。

地域の多様な主体との連携・協力により教育のみならず、観光やまちづくりなど他の分野への歴史・文化資源の効用の拡大を図る。

(2) 目指す博物館像

上記の運営理念を具現化するため、5つの目指す博物館像を掲げる。

① 継承する博物館

新潟市域の歴史に関する情報を収集して再構築を図るとともに、地域に根差して受け継がれてきた歴史資料を市民共有の財産として収集・保存し、後世へ継承する。

収集した歴史資料は、それぞれの性質や性格に応じた保存環境のもと適切な保存管理を行う。また、調査研究に基づいて適切に情報を整理するとともに、資料と情報へのアクセス環境を整備することで、より効果的な活用を図る。

【資料3】

また、市内外の関係施設・団体と連携・協力した歴史資料の収集・保存活動により、新潟市の歴史像を物語る資料の体系的な収集と整理、調査研究を行うことで、全市的な視点でのコレクション形成を目指す。そして、その適正な保存管理に貢献するとともに、それらの価値の認知向上に取り組む。

② 明らかにする博物館

調査研究を通じて、所蔵する歴史資料や地域に残る文化遺産などの本質的価値や当地域ならではの歴史の特性を明らかにする。その際、新潟の地に生きてきた幾多の人びとの存在と営みに光をあて、市民が地域の歴史への関心を高め、誇りと愛着を育む契機となるようこころがける。

また、一般の個人や研究者、様々な団体・機関の調査研究等の活動を支援し、必要に応じて所蔵する歴史資料や調査研究情報を提供する。また、市民と協働した調査・研究事業を行うことで、歴史解明にかかわる市民の人的育成にも寄与する。

③ 発信する博物館

調査研究を通じて明らかにした新潟市の歴史的特性を、展示事業や講演・講座をはじめとした教育普及事業、参加体験型の事業やインターネット、出版事業等で発信する。その際には、市民が新潟市の歴史への理解を深め、また市外からの来訪者が新潟市に興味関心を抱くことができるように、分かりやすい発信を心掛ける。

また、新潟市の歴史像や文化を考える基礎となる博物館資料の情報について、デジタルアーカイブの公開など多様な方法で発信・提供する。

④ 交流する博物館

当館は開館当初から、人と人とのつながりによる情報伝達やホスピタリティを重視し、それを体現するため館活動をサポートするボランティアスタッフの育成に努めてきた。

今後も歴史を媒介とする交流を重視し、市民や観光客、授業で来館する児童・生徒など、世代や立場の異なる来館者が、館スタッフやボランティアスタッフとの交流を通じ、歴史・文化への理解を深め、またそれぞれが刺激し合いながら歴史・文化をめぐる発見や学び、感動を分かち合える場を創出する。

さらに、館の利用機会が乏しかった世代（未就学児・高校生など）へもアプローチし、博物館の楽しみ方を知ってもらい、館の利用拡大を図るとともに、この世代が歴史を媒介として交流する活動を支援する。

⑤ つなぐ博物館

教育機関や観光、まちづくり団体などのほか、地域振興に寄与するためにこれまで博物館とのつながりが希薄だった地場産業などの分野とも柔軟に連携し、博物館の外で行うアウトリーチや調査を共同で実施するとともに、さまざまな主体が行う活動への支援・協力を行い、館内外の枠を超えて市全体の文化観光を推進する。それによって地域の活性化と交流人口の拡大に寄与するとともに、地域の歴史遺産の保全に対する理解と文化資源の活用の広がりを図る。

5. 重点項目（令和7年度から令和11年度）

これまでに示した博物館像や理念、社会情勢の変化などを踏まえ、下記の取り組みを令和7年度から令和11年度の重点項目（課題）として位置付ける。そして、それぞれの項目ごとに評価を行い、事業の改善を図ることとする。

なお、評価については、博物館運営についての意見聴取を図る運営協議会を活用し、博物館による自己評価と運営協議会による評価とを総合して行うものとする。

（1）多様な主体との連携

博物館の外部の多様な主体との連携を進める。人的な資源は有限であるが、館の内外の枠にとらわれず、市の歴史文化に関わる活動の活性化を支援し、地域づくりに寄与する。

・具体的な評価軸と指標：別紙参照

（2）資料情報のデジタルアーカイブ化の推進

所蔵資料の整理、データベースの登録を進めるとともに、企画展や講座を成果とする調査情報を含めた資料情報のデジタルアーカイブ化を進め、博物館ホームページ上での公開を推進する。

・具体的な評価軸と指標：別紙参照

（3）インクルーシブな視点からの展示改善

展示事業の見直し・改善を中心に、外国人や障がい者がよりよく利用できる環境の整備をICT機器の普及を利用しつつ、あるものを活かして取り組みを進める。

また、ミュージアムシアターの新たな作品を製作し、旧来作品にはなかった字幕を付けた作品を製作することで、ユニバーサルデザイン、バリアフリーを推進するとともに、ハンズオンや体験プログラムなど教育普及事業を充実させ、障がい者・健常者・高齢者・外国人といった属性・年代を問わず、誰もが歴史に親しみ、文化資源を活用できる環境整備を進める。

・具体的な評価軸と指標：別紙参照

（4）子どもと若年層に対する取り組み

人口減、少子化の進行に対応し、引き続き学校との連携を充実化させるとともに、小学3年生時に市内の多くのこどもが来館する状況を活かし、その前後の年齢層に対応したに対応したプログラムを設けて博物館利用の定着を促進する。これを通じて、新潟市の歴史・文化への愛着や誇りを育むとともに、こども・若者が歴史・文化を媒体として交流する場を創出する。

・具体的な取り組みは下記、評価軸と指標は別紙参照

4-1 はじめてみなとぴあの開催

未就学児等今まで参加が難しかった年代・属性の人々が博物館に興味をもってもらうきっかけをつくとともに、その後の定着化を図る。

4-2 高校生ボランティア

これまで利用者層の少ない高校生の活動の場を作るとともに、活動を媒介に他の若者や様々な世代との交流に寄与する

(5) 文化資源としての価値の向上

・具体的な取り組みは下記、評価軸と指標は別紙参照

5-1 みなとまち新潟を核とする合併地域を結ぶ地域像の発信

(全体にかかるため個別の評価は行わない)

博物館は新潟平野に広がる信濃川・阿賀野川流域と海を結ぶ、信濃川河口に立地する。その歴史的な背景を踏まえ、みなとまち新潟の歴史的な核である「古町学」の取り組みと成果を継承しつつ、新潟市域全体の歴史的なつながりを明らかにして、新潟市合併20周年の節目に、ミュージアムシアターの新たな作品や企画展にその成果を活用する。これによって、新潟市の文化観光の場としての機能を高め、交流人口の増加及び地域づくりの活性化に寄与する。

5-2 SNSによる魅力発信

ブランディングに寄与する魅力はまだまだロケーションに潜在している。広報スタッフが中心となり、フォトスポットをはじめとする調査を進めて魅力を発掘し、情報の即時性と共有性を特徴とするSNSを媒介に、SNSユーザーと広く共有する。SNSの効果的な運用によって、博物館の魅力を高め、来館者増やリピーター増に貢献する。

令和7年度 活動評価表

重点項目	①多様な主体との連携(交流する/つなぐ博物館)
目的	教育や歴史の専門分野の域を超えた多様な主体と連携し、まちづくりや観光、福祉、国際交流など多分野において地域の活力の向上に寄与する。
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・連携・協力した団体・個人数 ・連携・協力して実施した事業回数 ・連携において館が果たした成果
担当課	企画普及課・学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	○[評価指標]連携・協力した団体・個人数(実数)																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>件数(実績)</th> <th>件数(目標)</th> <th>件数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>まちづくり関係</td> <td rowspan="5">10</td> <td rowspan="5">12</td> <td rowspan="5"></td> </tr> <tr> <td>観光関係</td> </tr> <tr> <td>福祉関係</td> </tr> <tr> <td>国際関係</td> </tr> <tr> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>ボランティア一般 (人数)</td> <td>133</td> <td>130</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボランティア高校 (人数)</td> <td>36</td> <td>30</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		令和6年度	令和7年度		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)	まちづくり関係	10	12		観光関係	福祉関係	国際関係	その他	ボランティア一般 (人数)	133	130		ボランティア高校 (人数)	36	30	
			令和6年度	令和7年度																				
		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)																				
	まちづくり関係	10	12																					
	観光関係																							
	福祉関係																							
	国際関係																							
	その他																							
	ボランティア一般 (人数)	133	130																					
ボランティア高校 (人数)	36	30																						
○[評価指標]連携・協力して実施した事業回数(のべ数)																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>件数(実績)</th> <th>件数(目標)</th> <th>件数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>まちづくり関係 (イベント・研修)</td> <td rowspan="5">15</td> <td rowspan="5">17</td> <td rowspan="5"></td> </tr> <tr> <td>観光関係 (イベント・研修)</td> </tr> <tr> <td>福祉関係 (イベント・学習補助)</td> </tr> <tr> <td>国際関係 (交流・情報発信)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>ボランティア一般 (活動回数)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボランティア高校 (活動回数)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		令和6年度	令和7年度		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)	まちづくり関係 (イベント・研修)	15	17		観光関係 (イベント・研修)	福祉関係 (イベント・学習補助)	国際関係 (交流・情報発信)	その他	ボランティア一般 (活動回数)				ボランティア高校 (活動回数)				
		令和6年度	令和7年度																					
	件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)																					
まちづくり関係 (イベント・研修)	15	17																						
観光関係 (イベント・研修)																								
福祉関係 (イベント・学習補助)																								
国際関係 (交流・情報発信)																								
その他																								
ボランティア一般 (活動回数)																								
ボランティア高校 (活動回数)																								

成果	
課題	
次回 展望	
取組に対する 自己評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する 評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

重点項目	②多様な主体との連携(交流する/つなぐ博物館)
目的	観光、まちづくり、そのほかの分野と連携・協力を図り、地域の活性化に寄与する。
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携・協力を継続できたか(回数) ・観光、まちづくり、そのほかの分野と連携・協力による実施事業(回数)
担当課	旧小澤家住宅

I. 旧小澤家による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	○[評価指標]連携した学校連携の回数(単位:参加・開催件数)			
		令和6年度	令和7年度	
		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)
	博学連携:小学	2	2	
	博学連携:中高	2	2	
	博学連携:専大	2	2	
	○[評価指標]連携した分野別の回数(単位:参加・開催件数)			
		令和6年度	令和7年度	
		件数(実績)	件数(目標)	件数(実績)
	社会教育 (講座・講演)	2	1	
調査研究 (機関・団体・個人)	2	1		
報道出版 (取材資料提供)	3	1		
展示 (団体・企業・個人)	3	3		
まちづくり (イベント共催・協)	4	4		
観光 (ガイド協力・人材育)	1	1		
そのほか				

成果	
課題	
次回 展望	
取組に対する 自己評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する 評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

重点項目	③資料情報のデジタルアーカイブ化(継承する/発信する博物館)
目的	歴史博物館所蔵資料を広く社会に公開するため。
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市や各地域の歴史・文化を調査研究する上で基礎となる、歴史資料情報を公開・発信しているか(公開件数) ・デジタルアーカイブの公開により、活用しやすい形で情報を発信し、文化資源の活用に寄与しているか(利用数)
担当課	学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	1. 評価指標									
	○データベースの公開点数									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	5	10	
	令和6年度	令和7年度								
実績	目標	実績								
5	10									
2. 文化資源としての活用実績										
○データベースの利用数(ディレクトリトータルアクセス件数)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	0	10		
令和6年度	令和7年度									
実績	目標	実績								
0	10									
○データベースの利用数(データベースの画像利用申請点数)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>161</td> <td>200</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	161	200		
令和6年度	令和7年度									
実績	目標	実績								
161	200									

成果	
課題	
次回 展望	
取組に対する 自己評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する 評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

重点項目	④展示事業:インクルーシブな視点での改善(発信する/つなぐ博物館)
目的	さまざまな立場の来館者に向けて、博物館活動を楽しんでもらうための障壁をとりのぞき、より豊かな博物館体験を提供する
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも博物館を利用・参加できるよう館内の環境を整備し、観光や国際交流における活用価値を高める取り組みができたか ・外国人・障がい者に向けた情報の編集・発信に取り組めたか
担当課	学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	①[評価指標]常設展示を市外観光客が理解するバリアとなっている地名に解説補助を作成する(単位:コーナー実施率)									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	0%	100%	
	令和6年度	令和7年度								
	実績	目標	実績							
0%	100%									
②[評価指標]常設展示にインバウンド向けの外国語解説を作成する (単位:言語数)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	1	2		
令和6年度	令和7年度									
実績	目標	実績								
1	2									
③[評価指標]障がいがあってもMTを鑑賞することができる環境の計画づくり (単位:実施数)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	0	1		
令和6年度	令和7年度									
実績	目標	実績								
0	1									

成果	
課題	
次回 展望	
取組に対する 自己評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する 評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し
評価のコメント及 び今後の課題や 提言	

令和7年度 活動評価表

重点項目	⑤展示事業:インクルーシブな視点での改善(発信する/つなぐ博物館)
目的	さまざまな立場の来館者に向けて、博物館活動を楽しんでもらうための障壁をとりのぞき、より豊かな博物館体験を提供する
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも博物館を利用・参加できるよう館内の環境を整備し、観光や国際交流における活用価値を高める取り組みができたか ・外国人・障がい者に向けた情報発信に取り組めたか
担当課	旧小澤家住宅

I. 旧小澤家による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	<p>①[評価指標]館内案内図の外国語版を作成する。</p> <p>(単位:言語数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	4	1	
	令和6年度	令和7年度								
実績	目標	実績								
4	1									
<p>②[評価指標]土間の段差用に置き型の手すりを購入・設置する。</p> <p>(単位:設置数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度		実績	目標	実績	0	1		
令和6年度	令和7年度									
実績	目標	実績								
0	1									
成果										
課題										

<p>次回 展望</p>	
<p>取組に対する 自己評価</p>	<p>継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し</p>

<p>II. 運営協議会委員による評価・検証</p>	
<p>取組に対する 評価</p>	<p>継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し</p>
<p>評価のコメント及 び今後の課題や 提言</p>	

令和7年度 活動評価表

重点項目	⑥子どもと若年層に対する取り組み(交流する/つなぐ博物館)
目的	・館の利用が乏しかった世代(未就学児・高校生)に応じた事業を実施し利用拡大を図る。
評価軸	・園や保護者と連携した未就学児に対するプログラム実施(回数と参加者数) ・高校生の社会参画を意識したボランティア活動機会の創出と参加への促進(実施数と参加人数)
担当課	学芸課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	○[評価指標]はじめてみなとぴあ参加施設数(単位:回)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="3">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>回数(実績)</th> <th>施設数</th> <th>回数(目標)</th> <th>回数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9</td> <td>4</td> <td>9</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度			回数(実績)	施設数	回数(目標)	回数(実績)	9	4	9	
	令和6年度	令和7年度											
	回数(実績)	施設数	回数(目標)	回数(実績)									
	9	4	9										
○[評価指標]高校生ボランティアの参加者数(単位:回)													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>参加者数(実績)</th> <th>活動回数</th> <th>参加者数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36</td> <td>12※</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※高校生イベント(たいけんのひろばなつまつり)準備・当日活動5回、体験プログラム参加7回</p>	令和6年度	令和7年度		参加者数(実績)	活動回数	参加者数(実績)	36	12※	25				
令和6年度	令和7年度												
参加者数(実績)	活動回数	参加者数(実績)											
36	12※	25											
○[評価指標]高校生ボランティアの活動充実度(単位:%)													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和6年度</th> <th colspan="3">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>「5(5段階評価)」(実績)</th> <th>活動回数</th> <th>よい(目標)</th> <th>よい(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.7</td> <td></td> <td>95</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和6年度	令和7年度			「5(5段階評価)」(実績)	活動回数	よい(目標)	よい(実績)	90.7		95		
令和6年度	令和7年度												
「5(5段階評価)」(実績)	活動回数	よい(目標)	よい(実績)										
90.7		95											
○[評価指標]子どもの年齢段階別利用者数(単位:人)													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年齢段階</th> <th>令和6年度</th> <th colspan="2">令和7年度</th> </tr> <tr> <th>参加者数(実績)</th> <th>参加者数(目標)</th> <th>参加者数(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年齢段階	令和6年度	令和7年度		参加者数(実績)	参加者数(目標)	参加者数(実績)						
年齢段階		令和6年度	令和7年度										
	参加者数(実績)	参加者数(目標)	参加者数(実績)										

	未就学児	175	190	
	小学生①	1642	1800	
	小学生②	86	95	
	中学生	229	250	
	高校生	123	145	
	<p>※教育普及事業(博学連携・アウトリーチ・体験プログラム・子ども歴史クラブ・はじめてみなとぴあ・ボランティア)の合計</p> <p>①は博学連携の展示観覧者数・出前授業利用者数、</p> <p>②はそれ以外の参加者数</p>			
成果				
課題				
次回展望				
取組に対する自己評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し			

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し
評価のコメント及び今後の課題や提言	

令和7年度 活動評価表

重点項目	⑦SNS発信の強化(発信する/つなぐ博物館)
目的	館のロケーションに潜在するブランディングに寄与する魅力を引き出し、自他の発信を喚起、広く共有する。それにより、館の認知を広める。
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント広報とは別に、みなとぴあの隠れたフォトスポット(建物、景観、季節の植物等)を調べ、魅力ある写真を月2回以上発信できたか。 ・それらの発信で評価を受け、そのフォトスポットへ来たくなるなど、ブランディングに寄与できたか。
担当課	企画普及課

I. 博物館による自己点検と評価

評価指標 ・活動実績	○[評価指標]イベント広報以外のSNS発信件数(単位:件数)								
	令和7年度 ※XとInstagramともに発信								
		目標	実績		目標	実績		目標	実績
	4月	2		8月	2		12月	2	
5月	2		9月	2		1月	2		
6月	2		10月	2		2月	2		
7月	2		11月	2		3月	2		
○[評価指標]発信に対しての評価件数(単位:件数)									
令和7年度 【目標:評価数30以上】									
評価数(♡)	X	Instagram	評価数(♡)	X	Instagram				
1~10			101~150						
11~30			151~200						
31~50			201~250						
51~100			251~						

成果	
課題	
次回展望	
取組に対する自己評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し

II. 運営協議会委員による評価・検証	
取組に対する評価	継続 ・ 多少修正が必要 ・ さらなる改善が必要 ・ 見直し
評価のコメント及び今後の課題や提言	

博物館における評価の実施について

評価の実施にあたり、評価学に基づいた評価の定義と日本博物館協会が示しているガイドラインに沿って評価を実施することとする。

1. 評価とは

欧米諸国では、官民とも評価が慣行化している一方、日本は2000年頃から透明性の確保や説明責任が問われたことから欧米諸国の取り組みにならない始まったもので、評価の概念の認識不足からアンケート結果の満足度や費用対効果の高い事業は評価が高く、これらの結果が芳しくない事業は評価が低いという判断になっている。

しかし、評価の専門家である C.H ワイスによると「評価とは、プログラムの政策の改善に寄与するための手段として、明示的(数値的な到達基準＝評価指標)もしくは黙示的な基準(将来の方向性や望ましい状態＝運営方針)と比較しながらプログラムや政策の実施あるいはアウトカムを体系的に査定することである」(註)としている。

2. 博物館評価の評定項目

上記評価の定義を踏まえ、今回の評価の実施にあたっては、運営方針に基づいたプログラムの実施やアウトカムの改善が促されているかという観点からPDCAサイクルを基に評定項目を設定した。詳細は「博物館評価 評価表」のとおり。

3. 博物館評価の評点・評価

委員による評価は3名で実施することとし、3名の点数の平均点(100点満点)を評点とする。

評点	評価
80点以上	評価する 継続 (将来の方向性に近づくことが期待できる)
60～79点	やや評価する 多少修正が必要
50～69点	やや評価しない さらに改善が必要
50点未満	評価しない 見直し

4. 博物館評価実施にあたっての留意点

来館者アンケートの結果は、目標の達成状況の参考とはなるが、実績報告とアンケート結果だけでは評価とはみなさない。

(目標に対する達成状況を示し、分析・改善方策を検討しなければ、博物館評価とはみなさない)

令和7年度博物館評価 評価者の割り振り

- ・重点項目の評価は年度終了後に実施する。
- ・任期中は、同じ重点項目に対し同じ委員が評価を実施する。(=同じ人が同じ重点項目の評価を2回実施)

重点項目	自己評価	委員による評価		
① 博物館 多様な主体との連携	小林	今井	久保	渋川
② 旧小澤家 多様な主体との連携	若崎	小野	久保	松井
③ 資料情報のデジタルアーカイブ化	田嶋	池田	殖栗	原
④ 博物館 インクルーシブな視点からの展示改善	藍野	小野	中村	原
⑤ 旧小澤家 インクルーシブな視点からの展示改善	高橋	池田	中村	松井
⑥ 子どもと若年層に対する取り組み	貝沼	石黒	坂井	比金
⑦ SNS等発信の強化	渡辺	今井	加藤	村山

総括	自己評価	委員による評価
博物館	森	会長
旧小澤家	大泉	副会長

博物館評価の実施時期・実施サイクル

◆実施時期

博物館評価の実施は、年度終了後に行ったほうが望ましいため、以下のとおり実施する。

・R7年度評価・・・R8年度第1回運営協議会で実施結果を報告。委員と事務局が意見交換を行う。

・R8年度評価・・・R9年度第1回運営協議会で実施結果を報告。この回の運営協議会は、現任期では評価した委員と事務局が意見交換ができないため、任期を2年ではなく、2年3か月に変更。(R9年6月30日までが任期)

※次期委員の任期は、R9年7月1日～R11年6月30日までとする。

◆実施サイクル

	R7年度				R8年度				R9年度																	
	8月1日	→	10月もしくは11月	→	2月	→	3月	→	5月もしくは6月初旬	→	10月もしくは11月	→	2月	→	3月											
運営協議会	・令和7年度事業計画及び実施状況、現時点での成果、課題の説明 ・運営方針、評価書の説明		R7年度事業実施状況の報告(中間報告)		・R7年度事業実施状況の報告(自己評価の実施報告) ・R8年度事業計画(案)の説明				・R7年度の評価結果を報告し、委員と事務局が意見交換を行う ・R8年度事業計画の説明		R8年度の事業実施状況の報告(中間報告)		・R8年度事業実施状況の報告(自己評価の実施報告) ・R9年度事業計画(案)の説明			・R8年度の評価結果を報告し、委員と事務局が意見交換を行う ・R9年度事業計画の説明 ※現委員の最後の運営協議会。		R9年度の事業実施状況の報告(中間報告) ※次期委員はここで初めて運営協議会に出席する		・R9年度事業実施状況の報告(自己評価の実施報告) ・R10年度事業計画(案)の説明						
事務局					・自己評価を実施。2月の運営協議会で報告できるよう資料を作成		委員から提出された評価表をとりまとめる						・自己評価を実施。2月の運営協議会で報告できるよう資料を作成		委員から提出された評価表をとりまとめる											
委員							＜各委員＞ R7年度評価表(評点・コメント・今後の課題や提言)を記入、事務局に返送 ＜会長及び副会長＞ 割り振られた評価のほか、全体の評価を記入 ・会長・・・博物館分 ・副会長・・・旧小澤家分									＜各委員＞ R8年度評価表(評点・コメント・今後の課題や提言)を記入、事務局に返送 ＜会長及び副会長＞ 割り振られた評価のほか、全体の評価を記入 ・会長・・・博物館分 ・副会長・・・旧小澤家分									＜各委員＞ R9年度評価表(評点・コメント・今後の課題や提言)を記入、事務局に返送 ＜会長及び副会長＞ 割り振られた評価のほか、全体の評価を記入 ・会長・・・博物館分 ・副会長・・・旧小澤家分	